

証券コード6859

エスペック株式会社

2023年度(2024年3月期)
第2四半期決算説明

2023年11月22日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

2023年度第2四半期 決算概要

受注高は、特にEV・バッテリー向けがけん引
部材確保・生産対応強化により大幅に増収増益、過去最高を更新
第2四半期および通期の業績予想を上方修正

前年同期比

期初予想比

■ 受注高	○ 装置事業は高水準維持、サービス事業(主に受託試験)が増加	○ 装置事業(環境試験器、エネルギーデバイス装置)、サービス事業が上回る
■ 売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業が大幅増	○ 装置事業、サービス事業が上回る
■ 営業利益	○ 販管費は増加したが増収により大幅増	○ 売上高の上振れ、環境試験器・受託試験の原価率改善により上回る
■ 経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の増加により上回る

■ 配当は期初予想より修正なし(中間25円、期末45円、年間70円)

損益の状況

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	33,266	26,500	33,440	+0.5%	+26.2%
売上高	22,945	26,000	27,257	+18.8%	+4.8%
売上原価 原価率	15,150 66.0%	17,250 66.3%	17,771 65.2%	+17.3% 0.8pt改善	+3.0% 1.1pt改善
売上総利益	7,794	8,750	9,485	+21.7%	+8.4%
販管費	6,399	6,900	7,151	+11.8%	+3.6%
営業利益	1,395	1,850	2,333	+67.2%	+26.2%
経常利益	1,731	1,950	2,526	+45.9%	+29.6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	984	1,300	1,653	+68.1%	+27.2%

セグメント別の損益の状況

(百万円)

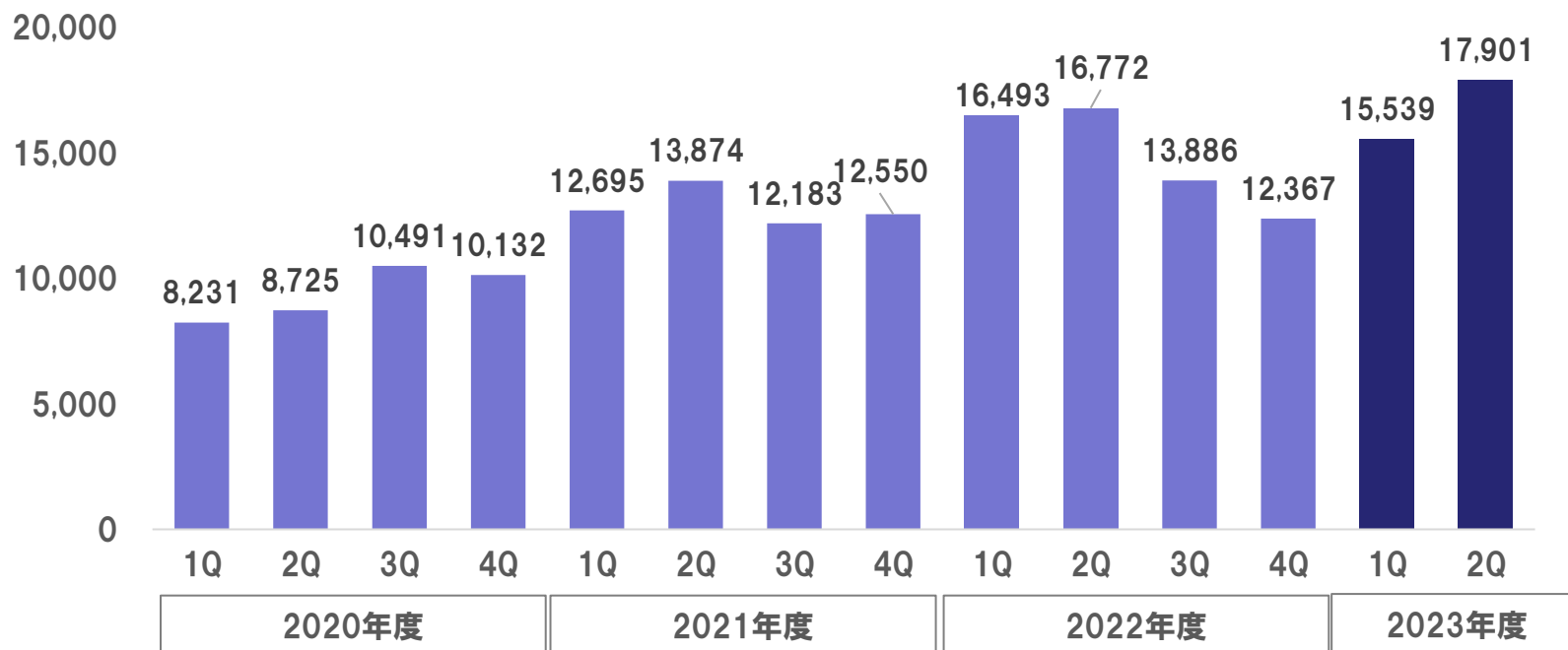
		2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計 期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
装置事業	受注高	29,209	22,550	29,198	△0.0%	+29.5%
	売上高	19,650	22,450	23,533	+19.8%	+4.8%
	営業利益	1,403	1,870	2,175	+55.0%	+16.3%
サービス事業	受注高	3,470	3,350	3,785	+9.1%	+13.0%
	売上高	3,020	3,150	3,445	+14.1%	+9.4%
	営業利益	72	30	249	+244.7%	+730.4%
その他事業	受注高	747	750	655	△12.3%	△12.5%
	売上高	405	550	475	+17.5%	△13.5%
	営業利益	△80	△50	△88	-	-
連結消去	受注高	△161	△150	△199	-	-
	売上高	△130	△150	△197	-	-
	営業利益	△0	0	△2	-	-
計	受注高	33,266	26,500	33,440	+0.5%	+26.2%
	売上高	22,945	26,000	27,257	+18.8%	+4.8%
	営業利益	1,395	1,850	2,333	+67.2%	+26.2%

2023年度上期実績・受注高について

- 受注高は前年同期比で減少予想だったが、国内のEV・バッテリー向け投資がけん引(環境試験器・エナジーデバイス装置・受託試験)
上期受注高は、3期連続で過去最高を更新

四半期ごとの受注高推移

(百万円)

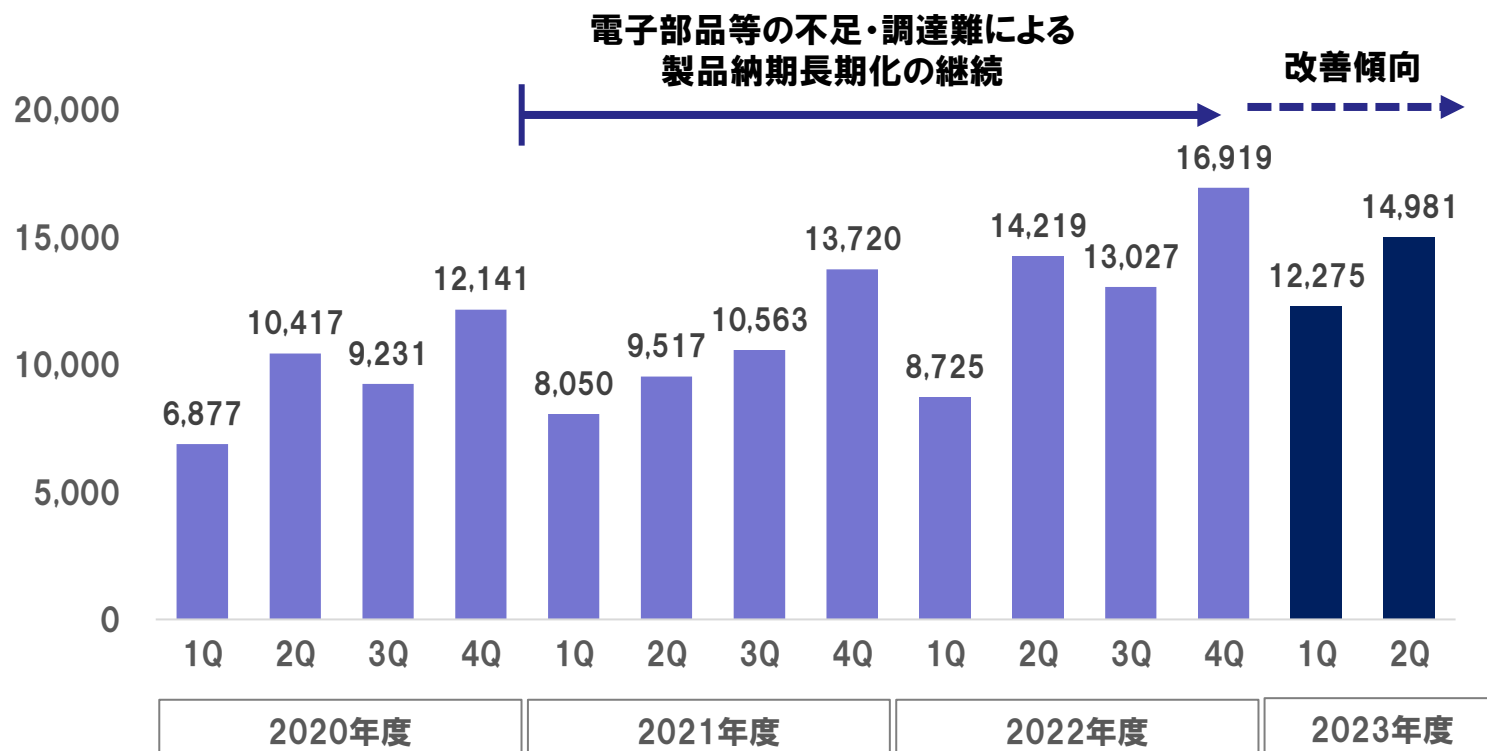


2023年度上期実績・売上高について

- 売上高は、部品の長納期は継続しているが部材確保・生産対応強化により2023年3月末受注残の消化、製品リードタイムの改善が進展
上期売上高は、2期連続で過去最高を更新

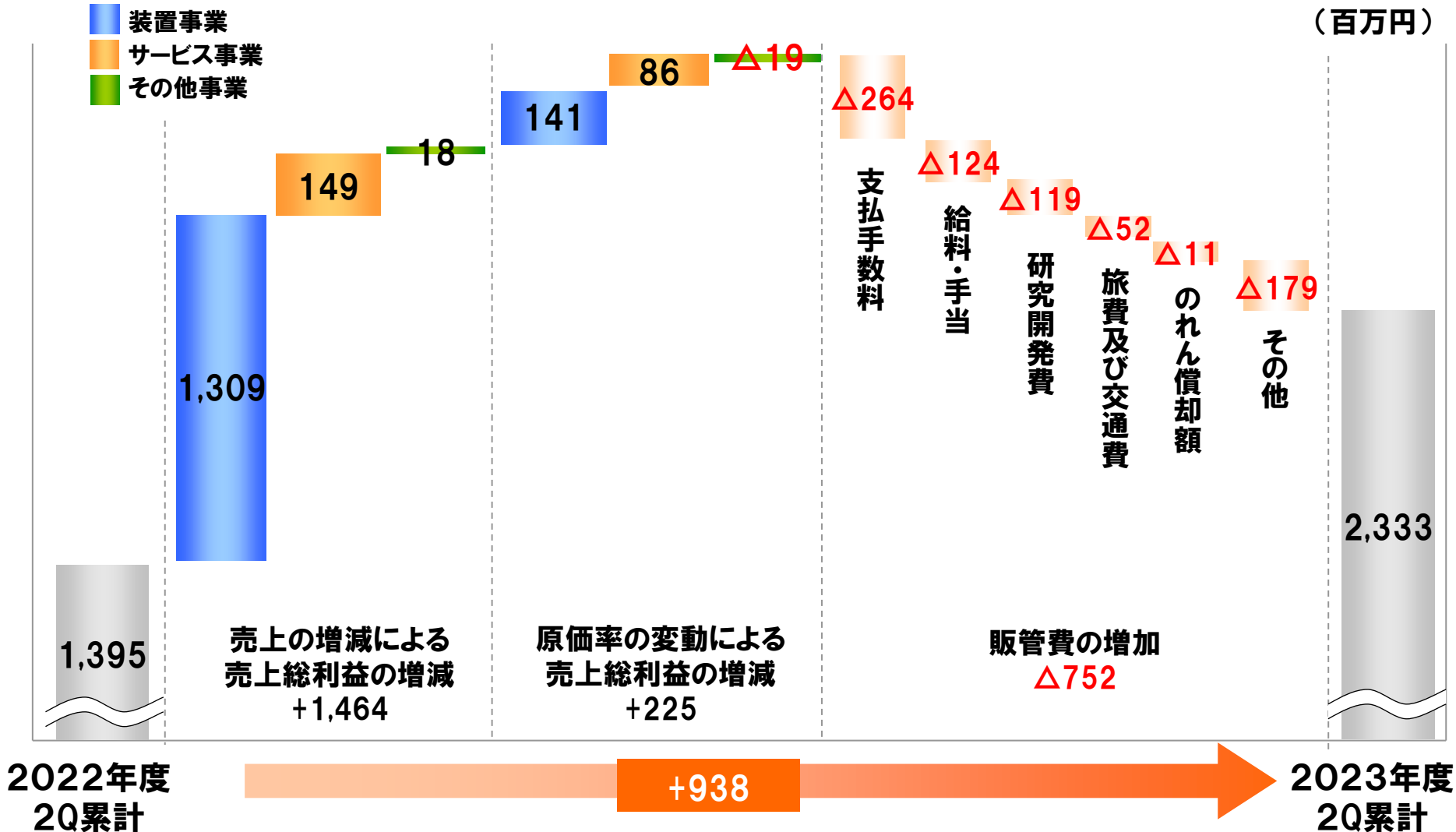
四半期ごとの売上高推移

(百万円)



上期営業利益の増減要因分析

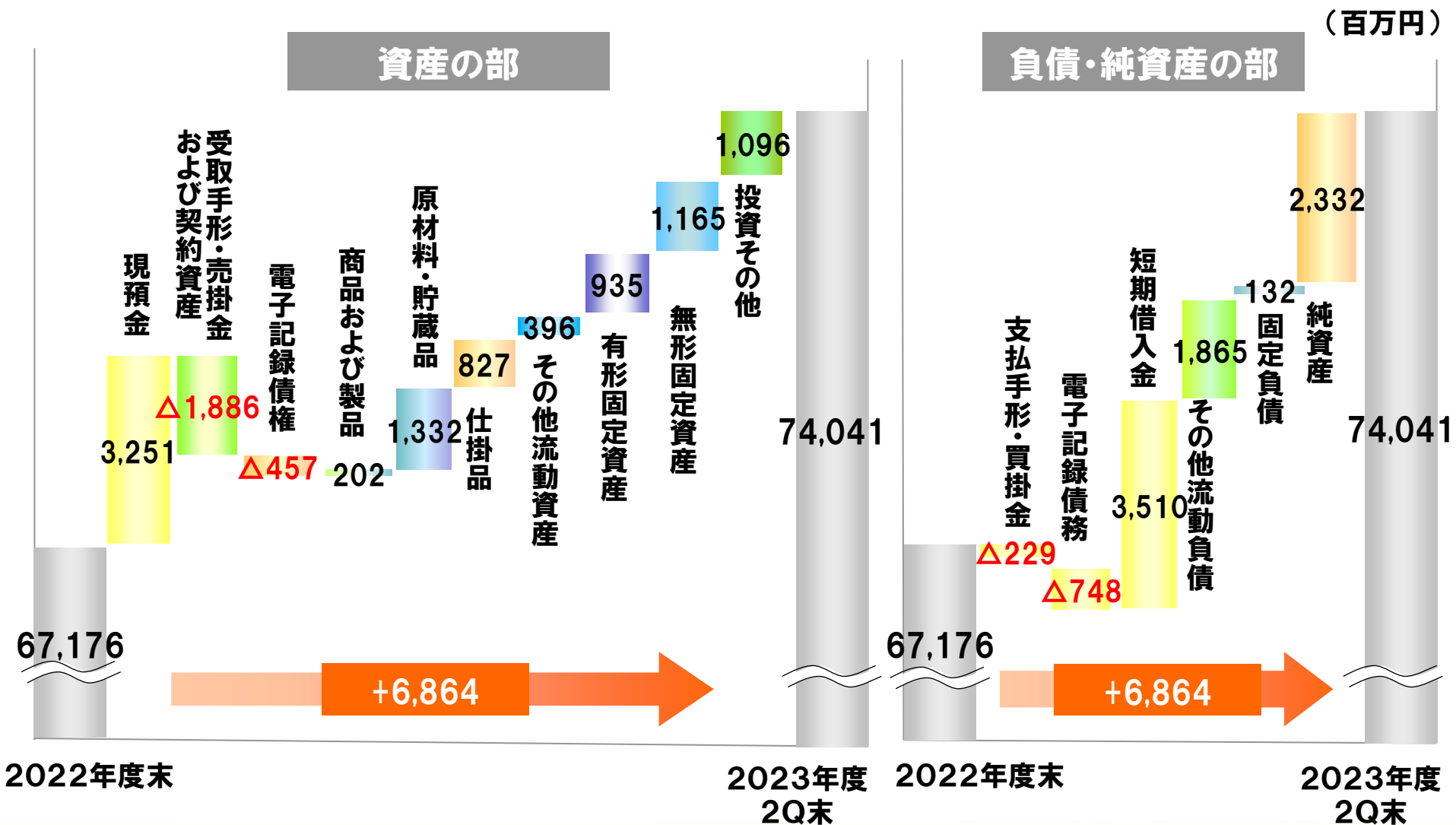
■ 販管費は増加したが、主に装置事業の増収効果により約9億円増加



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

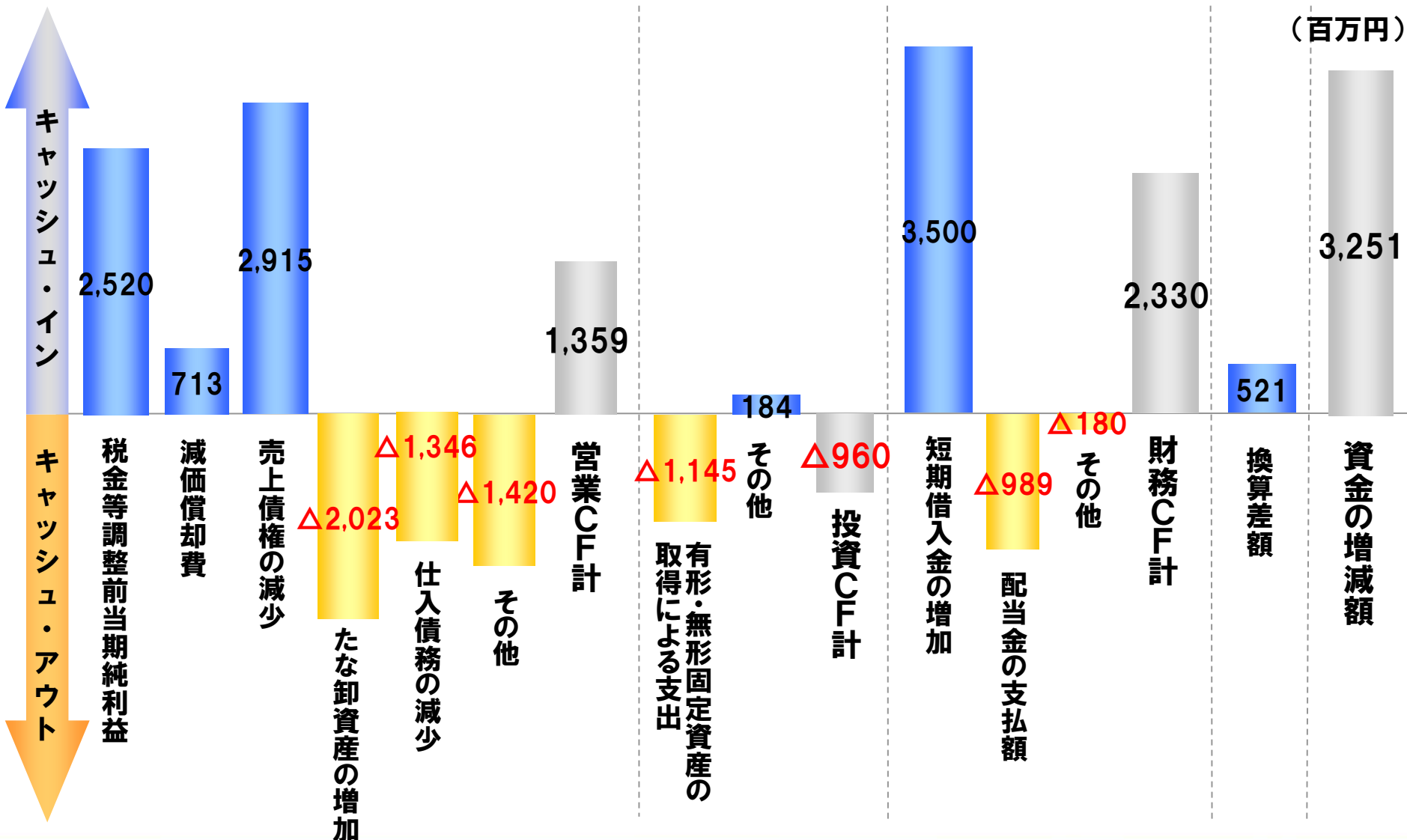
資産・負債の状況

■ 主に短期借入による現預金の増加、有形・無形固定資産の増加により、資産は約68億円増加



キャッシュフローの状況

■ 主に短期借入金により、資金は約32億円増加



装置事業セグメント

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	29,209	22,550	29,198	△0.0%	+29.5%
売上高	19,650	22,450	23,533	+19.8%	+4.8%
営業利益	1,403	1,870	2,175	+55.0%	+16.3%
利益率 (%)	7.1%	8.3%	9.2%		

環境試験器

- 国内では、受注高は前年同期比で汎用性の高い標準製品が減少したもののカスタム製品は自動車関連を中心に増加、売上高は標準製品・カスタム製品ともに増加
- 海外では、受注高は前年同期を下回ったものの売上高は増加
主に北米、欧州が増加、韓国、台湾も増加、中国は前年同期並み

エナジーデバイス装置

- 受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加
電気自動車(EV)・二次電池向けの投資拡大により、主に国内で充放電試験用チャンバーが好調

半導体関連装置

- 主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高は前年同期比で減少
売上高は前年同期並み

サービス事業セグメント

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	3,470	3,350	3,785	+9.1%	+13.0%
売上高	3,020	3,150	3,445	+14.1%	+9.4%
営業利益	72	30	249	+244.7%	+730.4%
利益率 (%)	2.4%	1.0%	7.2%		

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加

受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

その他事業セグメント

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	747	750	655	△12.3%	△12.5%
売上高	405	550	475	+17.5%	△13.5%
営業利益 利益率 (%)	△80 △19.8%	△50 △9.1%	△88 △18.6%	-	-

環境保全・植物育成装置

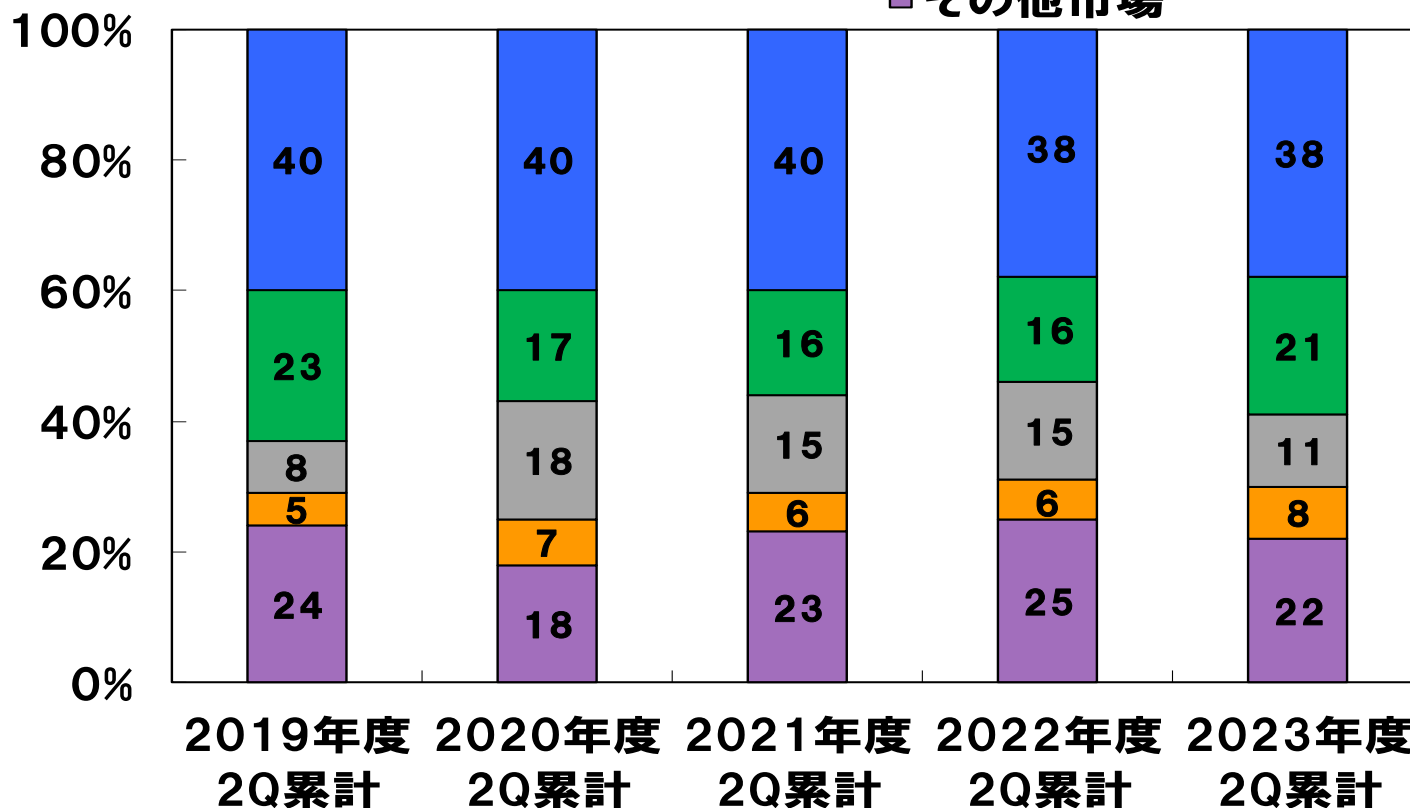
- 森づくりや植物研究用装置が低調となり、受注高は前年同期比で減少、新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスの納入などにより売上高は増加

市場別売上構成比

■ 売上高は、電子部品・機器市場は1.2倍、自動車はEV・バッテリーを中心に大幅に増加し1.6倍、半導体市場は減少

単体(装置事業)

- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関
- その他市場

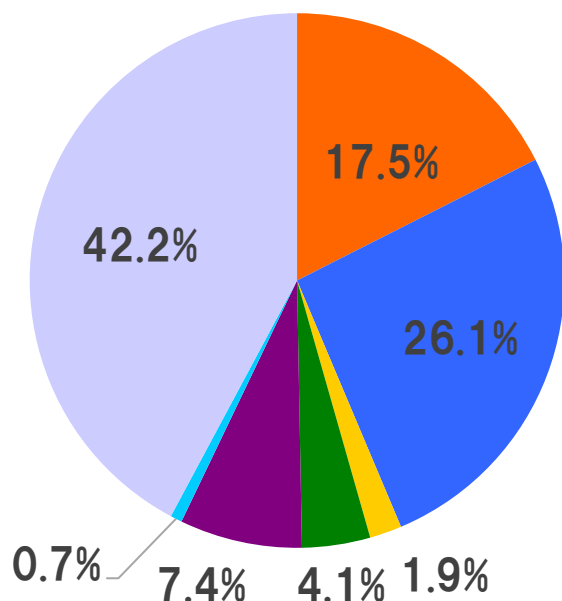


地域別売上構成比

■ 売上高は主に日本、北米、欧州が増加、中国は前年同期並み

2022年度2Q累計

海外売上高比率:57.8%

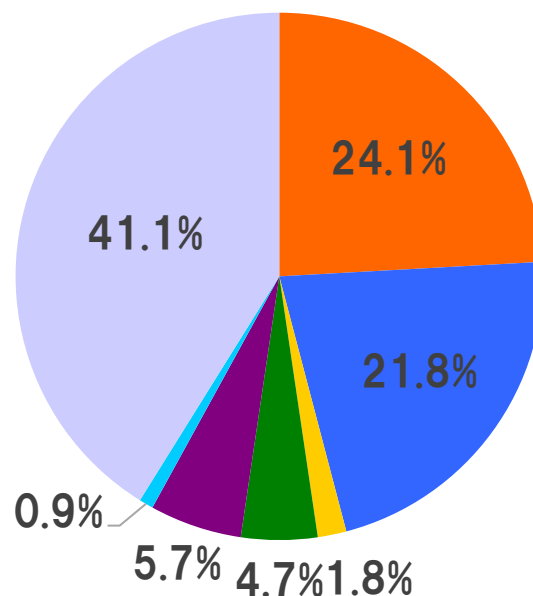


計 22,945百万円

(海外売上高:13,268百万円)

2023年度2Q累計

海外売上高比率:58.9%



計 27,257百万円

(海外売上高:16,045百万円)

2023年度 業績予想について

■ 通期業績予想のポイント

- ・受注は、上期の勢いは落ち着くと見るが高水準を維持すると認識
- ・カスタム製品の生産が下期に偏重見込み
- ・部材およびリソース確保に全力を挙げ、過去最高売上高・営業利益の更新を目指す

■ 想定為替レートの変更

	2021年度	2022年度		2023年度		
	通期実績	上期実績	通期実績	上期実績	通期期初想定	通期修正
USD(円)	112.40	134.04	135.51	141.06	130	145

2023年度為替感応度(対ドル1円円安):売上高185百万円増加、営業利益35百万円増加

■ 事業譲受

日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の環境試験装置の製造、販売を連結子会社コスモピアハイテック株式会社が譲受

譲受価額: 1,800百万円

譲受日 : 2023年9月30日

2023年度 通期業績予想

(百万円)

	2022年度	2023年度	2023年度			
	通期実績	通期期初予想	上期実績	業績予想(10/27修正)		
				下期	通期	前期比
受注高	59,521	54,000	33,440	27,559	61,000	+2.5%
売上高	52,892	56,000	27,257	31,243	58,500	+10.6%
売上総利益	17,957	19,000	9,485	11,015	20,500	+14.2%
利益率(%)	34.0%	33.9%	34.8%	35.3%	35.0%	+1.0pt
販管費	13,590	14,000	7,151	7,848	15,000	+10.4%
販管费率(%)	25.7%	25.0%	26.2%	25.1%	25.6%	△0.1pt
営業利益	4,366	5,000	2,333	3,166	5,500	+26.0%
利益率(%)	8.3%	8.9%	8.6%	10.1%	9.4%	+1.1pt
経常利益	4,664	5,100	2,526	3,224	5,750	+23.3%
利益率(%)	8.8%	9.1%	9.3%	10.3%	9.8%	+1.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,330	3,650	1,653	2,346	4,000	+20.1%
利益率(%)	6.3%	6.5%	6.1%	7.5%	6.8%	+0.5pt
1株当たり当期純利益(円)	150.34	167.18	75.76	107.45	183.21	+21.9%

※ROE(自己資本利益率) 2023年度目標 7.5%→8.1%に修正(前期比+0.9pt)

2023年度 投資計画

(百万円)

	2022年度	2023年度	2023年度			
	通期 実績	通期 期初予想	上期 実績	業績予想(期初から修正なし)		
				下期	通期	前期比
設備投資額	1,311	3,100	1,300	1,800	3,100	+136.5%
減価償却費	1,328	1,480	715	765	1,480	+11.4%
研究開発費	1,041	1,490	619	871	1,490	+43.1%

環境認識

■ 受注は上期の勢いは落ち着くが、日本を中心にEV・バッテリーなど先端技術分野の需要は継続

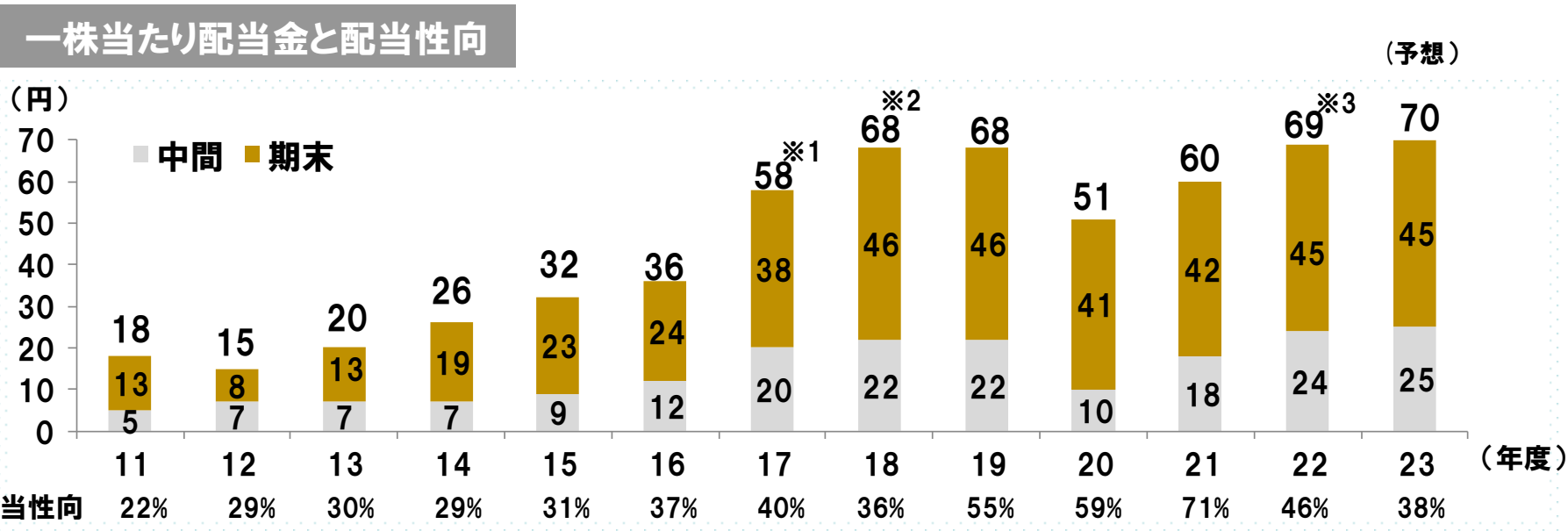
装置事業	環境試験器	<p>日本 :EV・バッテリーの投資が好調を維持、IoT関連の投資は一服感があるが堅調に推移</p> <p>中国 :EV・バッテリーの投資は堅調だが、半導体関連は減少 下期は上期並みの受注を予想</p> <p>ASEAN :EV・バッテリー、半導体関連が堅調</p> <p>北米 :航空機、自動車関連が堅調だが、景気減速を懸念</p> <p>欧州 :景気減速により投資抑制傾向が継続</p>
	エネルギーデバイス装置	国内を中心に充放電試験用チャンバーが好調
	半導体関連装置	メモリ関連の投資抑制により前期を下回る見込み
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	<p>アフター・エンジ :前期と同水準になると予想</p> <p>受託試験 :車載用バッテリーの試験需要が拡大</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	大型案件が少なく前期を下回る見込み

セグメント別の業績予想

		2022年度	2023年度	2023年度 (百万円)			
		通期実績	通期期初予想	上期実績	業績予想(10/27修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	51,446	45,500	29,198	23,561	52,760	+2.6%
	売上高	45,031	47,700	23,533	26,817	50,350	+11.8%
	営業利益	3,919	4,670	2,175	2,804	4,980	+27.0%
サービス事業	受注高	6,963	7,000	3,785	3,554	7,340	+5.4%
	売上高	6,788	6,900	3,445	3,805	7,250	+6.8%
	営業利益	428	300	249	301	550	+28.5%
その他事業	受注高	1,469	1,800	655	644	1,300	△11.6%
	売上高	1,404	1,700	475	824	1,300	△7.4%
	営業利益	16	30	△88	58	△30	-
連結消去	受注高	△359	△300	△199	△200	△400	-
	売上高	△330	△300	△197	△202	△400	-
	営業利益	1	0	△2	2	△0	-
計	受注高	59,521	54,000	33,440	27,559	61,000	+2.5%
	売上高	52,892	56,000	27,257	31,243	58,500	+10.6%
	営業利益	4,366	5,000	2,333	3,166	5,500	+26.0%

2023年度 配当予想

■ 2023年度配当予想は変更なし、配当性向は38.2%となる見込み



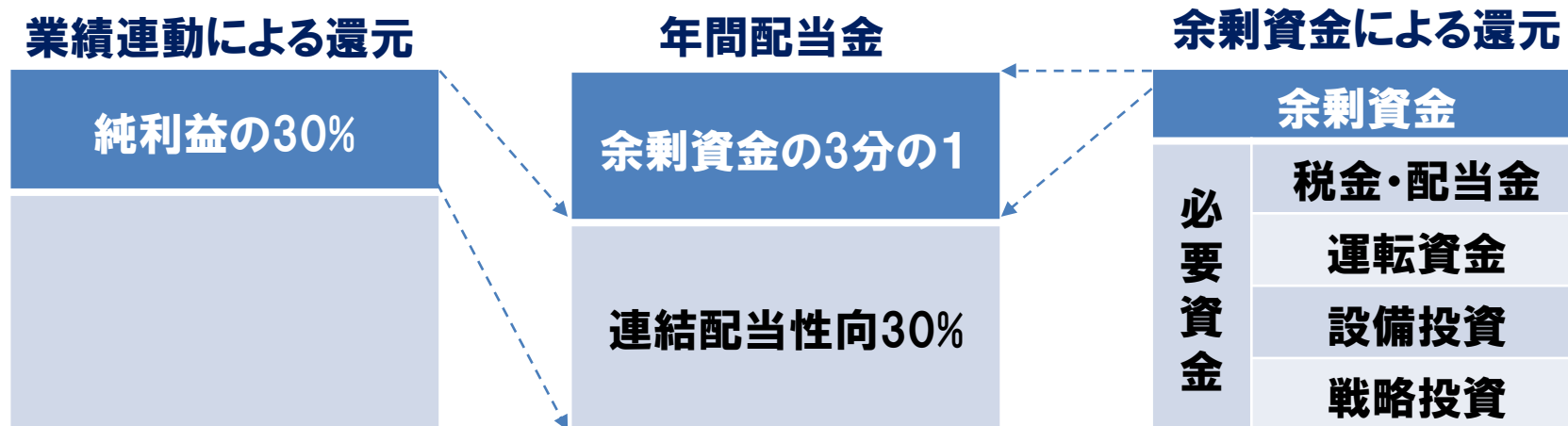
※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む
 ※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)
 ※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする

配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする

また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

2023年度 主な取り組み

装置事業

- ・収益力の向上、製品納期正常化および受注残高の早期解消
- ・グローバルに拡大するバッテリー市場への対応強化

サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 :自動車を中心とする先端技術分野向け試験サービスの拡充

エリア戦略

日本:EV・自動化、IoT分野のニーズに適合した製品投入による販売拡大、買替需要の喚起
北米:インフレ抑制法(IRA)による自動車市場の需要拡大への対応
中国:グループ連携によるEV、IoT市場への販売拡大
欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓
韓国:グローバル大企業への販売拡大

2023年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:低GWP冷媒への置き換え
製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:エスペックミックスの事業による貢献
「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進
- ・2030年度温室効果ガス排出量削減目標SBT認定(2023年7月取得)

■S(社会)

- ・人的資本の強化:管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度、
1on1の実施、次世代幹部育成
- ・ダイバーシティの推進:女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化および内部統制システムの整備・強化

バッテリー安全認証センター 受託試験設備を拡充

- 2023年10月、バッテリーの充放電試験ニーズに対応するため、充放電試験用設備を拡充
- EV向け受託試験サービス強化を目指し、2024年にかけてさらなる増強を予定



バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

半導体検査装置 高発熱負荷対応 「バーンインチャンバー」拡充

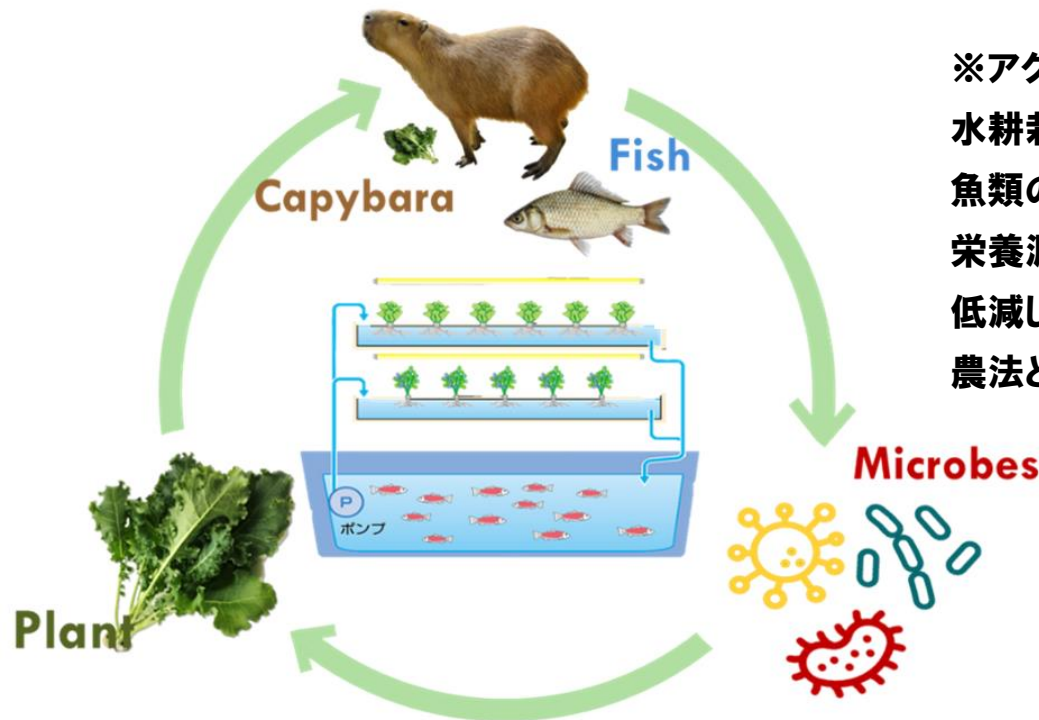
- 2023年3月、 -20°C ～ $+150^{\circ}\text{C}$ において許容発熱量を4倍(当社従来装置比)に拡大したバーンインチャンバーを拡充
- 半導体が高発熱状態でも精密に温度制御可能
- 検査量を大幅に増加、検査時間短縮に貢献



高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」

エスペックミック 川崎水族館（カワスイ）にて アクアポニックスを活用した共同研究を開始

2023年6月、エスペックミックが川崎水族館(カワスイ)、日本大学生物資源科学部 熱帯資源作物研究室と、アクアポニックスを活用した物質循環システムの実証実験に関する共同研究を開始



※アクアポニックスとは
水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせたシステム。
魚類の糞尿を微生物分解させ、野菜生育に必要な
栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または
低減した野菜生産が可能。近年、環境に配慮した
農法として注目が高まっている。

「アクアポニックスを活用した物質循環システム」イメージ図

社外からの評価

■2023年

- 11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
 - ・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星
- 10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位
- 8月・ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2023」
2年連続優秀企業に選定
- 6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定
- 3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定
- 2月・東洋経済新報社「2023年版CSR企業ランキング」372位

■2022年

- 12月・CDP気候変動レポート2022において3年連続「Bスコア」
 - ・日興アイ・アール「2022年度全上場企業ホームページ充実度
ランキング」2年連続最優秀サイト
 - ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2022」
銅賞（業種別24位）

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。**

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

**サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・貝川**

Quality is more than a word

ESPEC

証券コード6859

参考資料

会社紹介・事業概要

2023年11月22日
エスペック株式会社

会社概要

環境試験器の世界トップメーカー

会社名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	代表取締役 執行役員社長 荒田 知（あらた さとし）
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,691名(連結)
事業内容	環境試験器、エネルギーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上

※シェアは当社推定

(2023年3月31日現在)

グローバルネットワーク

連結子会社 14社
(海外9社、国内5社)

海外ネットワーク
50ヵ所(国・地域)
44社

国内営業・サービス拠点
16ヵ所
国内代理店 46社

欧州

- ESPEC EUROPE GmbH
- △ ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

日本

- エスペック(株) ※
- エスペックテストシステム(株) ※
- エスペックアシスト(株)
- エスペックミック(株)
- エスペックサーマルテックシステム(株) ※
- コスモピアハイテック(株) ※

アジア

- 上海愛斯佩克環境設備有限公司 ※
- 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司 ※
- 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ESPEC(CHINA)LIMITED
- ESPEC KOREA CORP. ※
- ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
- △ ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

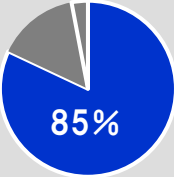
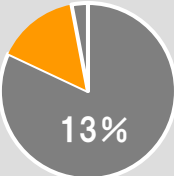
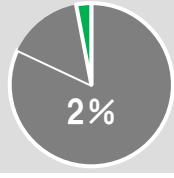
米国

- ESPEC NORTH AMERICA, INC. ※

- 印…連結子会社
- △ 印…非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

事業概要(各事業の市場／用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2022年度	
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・ハストチャンバー 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 ・FPD装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 	 <p>85%</p>
	エネルギーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 		
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産、検査 ・開発、評価 		
サービス事業	アフターサービス エンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービス ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 	—	 <p>13%</p>	
	受託試験 レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール ・機器レンタル ・校正 		<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 		
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化			 <p>2%</p>	
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

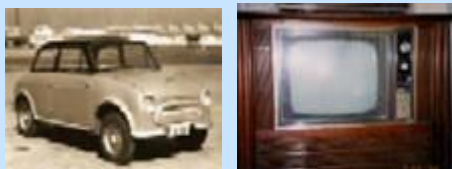
環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>

日本で民生品の環境試験がJIS規格化



<1970年代～1990年代>

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



<現在>

デジタル化、脱炭素化を背景にIoTや次世代自動車の開発分野において需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー

世界シェア No.1

経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞(2013年度、2020年度)

国内シェア
60%以上
世界シェア
30%以上



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

※シェアは当社推定

事業の変遷

環境試験器で培った 「環境創造技術」を軸に事業を拡大



エスペックの強み

トップシェア

シェアは世界30%以上、国内60%以上(当社推定)
国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外で
ブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

- ・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発
- ・多品種少量生産を可能とする生産技術力
- ・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験の
トータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した
製品をグローバルに提供

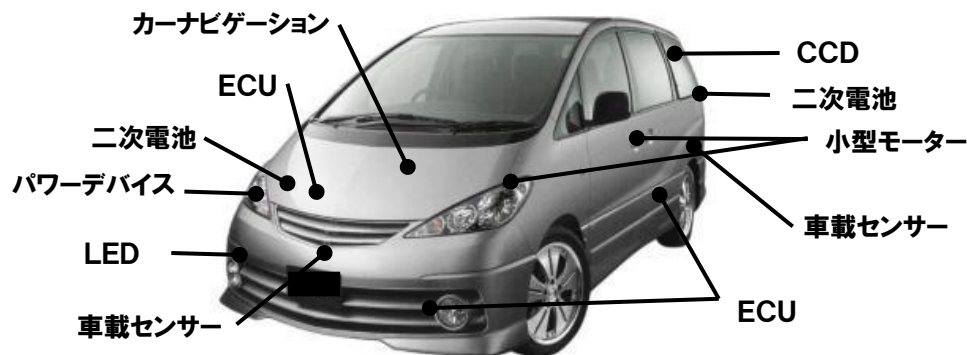
連結子会社 : 14社(海外9社、国内5社)

海外生産拠点 : 北米1社、中国2社、韓国1社

海外ネットワーク : 50ヵ所(国・地域)44社

【装置事業】環境試験器の用途事例

部品・モジュール・完成品単位と繰り返し試験を実施し、新技術・新製品の信頼性を確保



環境試験の代表例

デバイス	プロセス/試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■冷熱衝撃試験: $-30^{\circ}\text{C} \leftrightarrow \text{RT} \leftrightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 、 $-55^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +155^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
【CCD/CMOS】 	生産	■拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	評価	■スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
	検査	■温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C} / +85\% \text{rh}$ 、 $+60^{\circ}\text{C} / 90\% \text{rh}$	恒温恒温器(プラチナス)
		■加速試験: $+120^{\circ}\text{C} / 100\% \text{rh}$	HASTチャンバー
	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置	

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2023年3月	高発熱負荷対応 バーンインチャンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体が高発熱状態でも精密な温度制御が可能 ・検査量を大幅に増加でき、検査時間短縮に貢献
2023年2月	電波暗箱型恒温器ラインアップを拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・5G通信機器の温度特性試験に対応 ・試験品の大型化に対応し内容積の大きな4器種を拡充
2022年4月	低GWP※冷媒「R-473A」搭載 ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・GWP値を大幅に削減(88%減)、運転時の省エネも実現 ※GWP:地球温暖化係数
2021年6月	超低温保冷库	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナワクチンなどのマイナス75℃小口保管用途
2021年4月	定温輸送保冷库	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナワクチンなどの小口輸送・保管に最適 ・振動に強く、省電力、ポータブル
2021年2月	減圧低温加熱調理器 モデルチェンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・温度に加え真空度の精密な制御も可能
2020年8月	ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズラインアップを拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに急速温度変化タイプとして4器種を発売 シリーズで計32器種をラインアップ
2020年3月	輸送環境試験装置	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品や医療機器の輸送環境を再現 ・バイオ医薬品の研究開発や医療機器の品質管理用途
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車2台が入る大空間でさまざまな気象環境を再現
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格に適合

【装置事業】新製品紹介①

(2020年2月発売)

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ

<特長>

- 国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格「LV124」に適合
(有試料3℃/分の急速温度変化試験が可能)
- 低GWP冷媒(R-449A)を標準搭載

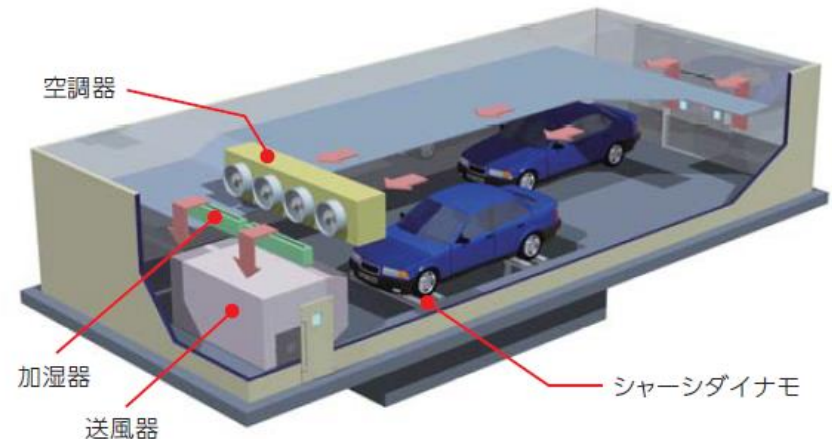


恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ハイパワーシリーズ

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ

<特長>

- 車2台が入る約500m³の大空間でさまざまな気象環境を精密に再現し、実車試験が行える
- 温湿度に加え、日射、雨、雪、霧、風などの環境因子を複合して再現可能



車2台が入る実車試験のイメージ

恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ドライブインシリーズ

【装置事業】新製品紹介②

医療分野向け

(2021年4月発売/6月発売)

■ 定温輸送保冷库/超低温保冷库

<特長>

- ・定温輸送保冷库:ワクチンの小口移送・保管に対応、振動に強く省電力、ポータブル
- ・超低温保冷库:マイナス75℃の小口保管に対応、床置型・卓上型の2種を用意



定温輸送保冷库



超低温保冷库

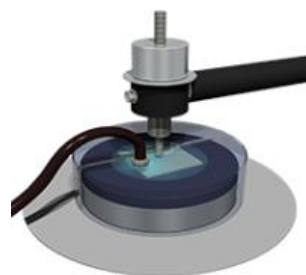
マテリアル分野向け

(2019年12月発売)

■ スポット冷却加熱装置

<特長>

- ・各種材料試験機との組み合わせで、温度を付与した実使用環境での材料試験が可能
- ・試験片を効率的に冷却・加熱する当社独自の新方式を採用



摩擦摩耗試験機・硬度計とのセットアップ例(左)
スポット冷却加熱装置(右)

【装置事業】環境試験器の納入事例①

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

(2018年7月納入)

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例②

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品:

大型恒温恒湿室

用途:

太陽光発電向けの

大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価

100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品:

①充放電試験用の恒温恒湿室

②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途:

①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価

②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しないことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

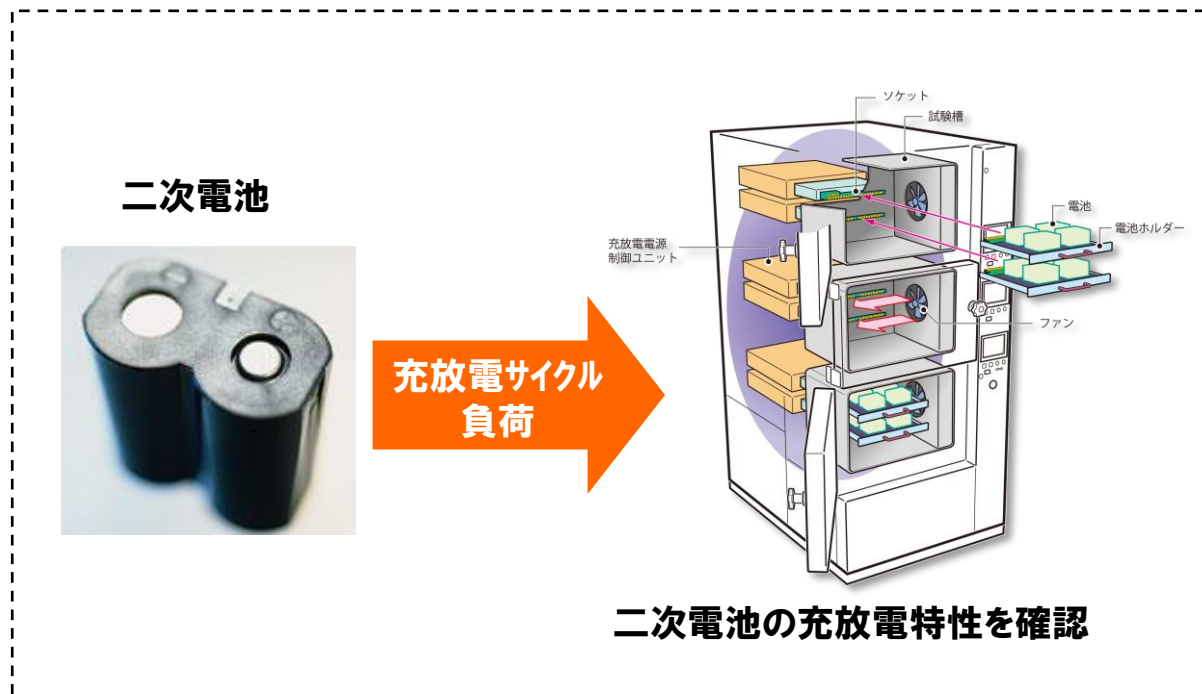
【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



充放電サイクル評価装置
アドバンストバッテリーテスター



二次電池の性能や寿命を評価

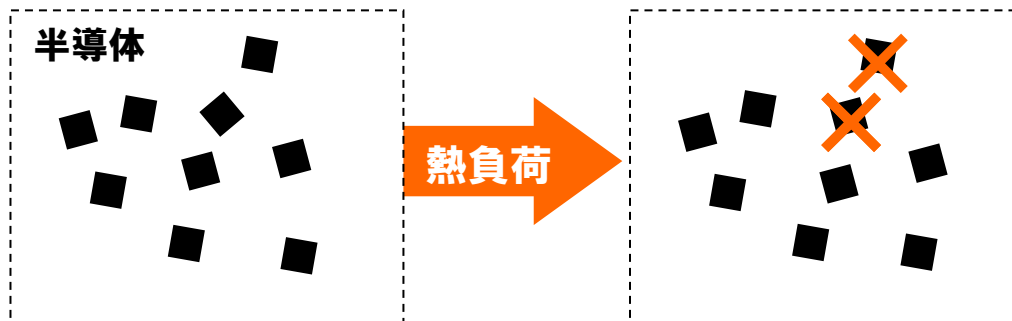
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



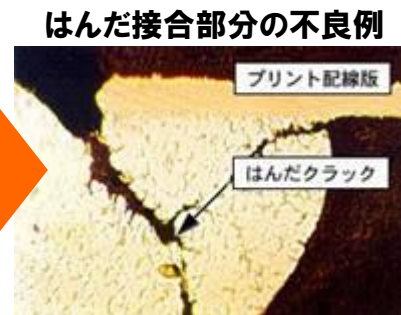
潜在的な初期故障を除去

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No.1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初 ネットワークを使ったサービス「エスペックオンラインシリーズ」を提供

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内4ヵ所、タイ1ヵ所、中国2ヵ所に受託試験所を展開
(国内:宇都宮・豊田・刈谷・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)
- ・ 計量法校正事業者認定制度(JCSS)に基づく校正機関
- 世界初「バッテリー安全認証センター」開設(2015年9月)
- ・ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した試験・認証申請のワンストップサービスを提供
- ・ 第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携(2014年10月)
- ISO/IEC 17025*試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で取得
- 豊田試験所では、国内初ドイツ自動車業界規格「LV124」の全試験項目に対応



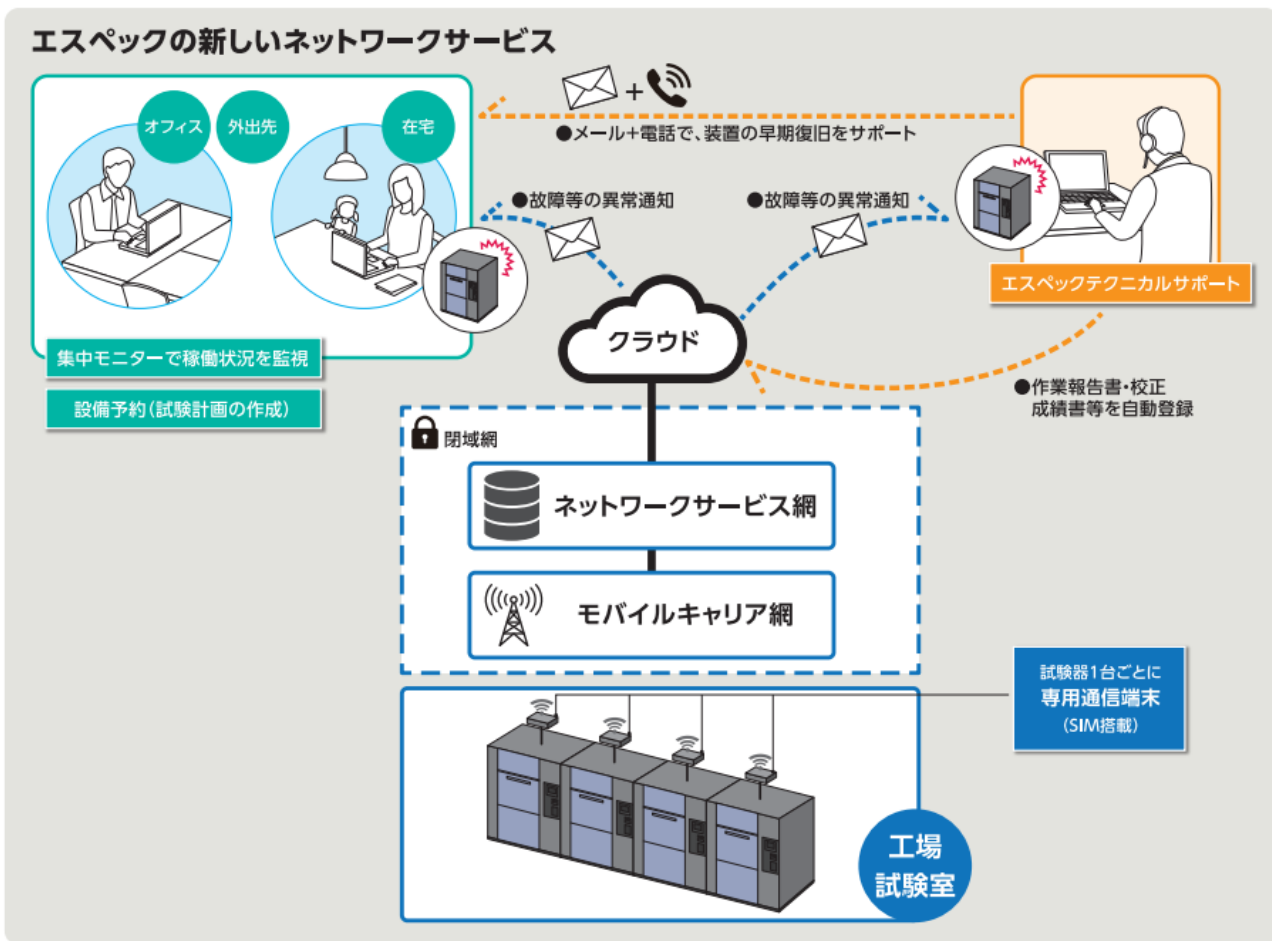
バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

*ISO/IEC17025:試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認定機関が認定する国際標準規格

【サービス事業】アフターサービス

(2022年4月開始)

モバイル通信・クラウド活用「ネットワークサービス」
お客様の試験・設備管理の負担軽減、装置のダウンタイムを低減



【サービス事業】アフターサービス・受託試験サービス

顧客のテレワークでの試験業務を支援「在宅オンラインサービス」

当社製品を使用する場合

自宅から装置を操作、試料を監視

- ・集中管理(モニター・データ解析)
- ・稼働状況をメールで受け取り
- ・槽内監視カメラで試料を監視

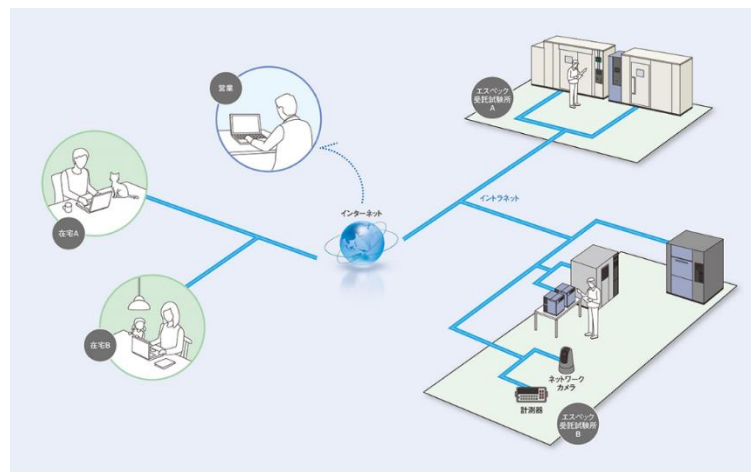


槽内監視カメライメージ

受託試験所を利用する場合

試験の開始から終了、試料の返送まで
すべて代行

- ・リモート商談
- ・立ち合いレス
- ・遠隔指示



【サービス事業】受託試験サービス

世界初 国連規則に対応 「バッテリー安全認証センター」

- ・2015年9月、宇都宮テクノコンプレックスに開設
- ・国連規則ECE R100-2. Part IIで定められた9項目の安全性試験の実施・認証機関への認証申請をサポートするワンストップサービスを提供



圧壊試験機(第1安全試験室)



第2安全試験室

国内初 車載用バッテリーパック・ モジュール不具合解析サービス

- ・2022年11月、パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定する解析サービスを開始
- ・公正な第三者機関としてサービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全性確保に貢献



セル解体用グローブボックス

【サービス事業】受託試験サービス

国内初 ドイツ自動車業界の 全試験規格に対応

- ・2019年9月、豊田試験所にて、ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応
- ・グローバル化を進める日本の車載機器メーカーをサポート



豊田試験所

国内初 受託試験サービス 100%再生可能エネルギーを実現

- ・2021年4月より、全国5つの試験所(宇都宮・豊田・刈谷・神戸・バッテリー安全認証センター)で実施する受託試験サービスを再エネで提供
- ・お客様のサプライチェーンにおけるCO2排出量削減に貢献



CO2排出量ゼロを明示する「グリーンパワーマーク」
当社試験所で実施した試験報告書に表記

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育成する植物工場や研究用育苗装置



植物工場



ファイトロン

【その他事業】植物育成装置

農研機構と共同開発 「栽培環境エミュレータ」

- ・2022年10月、農研機構などと共同で特許を取得※
- ・季節ごとの二酸化炭素濃度、温度、湿度等を精密に再現
- ・気候変動に適応した作物生産技術の開発に貢献



栽培環境エミュレータ

海洋深層水を使用した 高付加価値野菜を生産

- ・羽田空港近郊に設置した植物工場において、
海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値
野菜を生産・販売



植物工場と生産野菜「ミネラリーフ」

※エスペックミック株式会社、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）、
国立研究開発法人理化学研究所、一般財団法人 アグリオープン
イノベーション機構が共同で取得

【その他事業】植物育成装置の納入事例

■鳥取大学乾燥地研究センター

(2016年3月納入)

納入製品:

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途:

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

技術開発棟の紹介(技術開発力の強化)

目的 :オープンイノベーションの促進による技術開発力の強化と
生物多様性保全の推進

コンセプト :「オープンイノベーション」
「オープンコミュニケーション」
「自然環境との共存」

所在地 :兵庫県神戸市北区鹿の子台
(神戸R&Dセンター内)

稼働時期 :2020年5月(2019年6月着工)

建設面積 :1,580㎡

延床面積 :4,557㎡(地上3階建)



在来種にこだわった屋上緑地



技術開発棟の外観

全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

(2021年3月)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し
動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。



② 雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川

証券コード6859

参考資料

サステナビリティの取り組み

2023年11月22日
エスペック株式会社

エスペックのサステナビリティについて

**当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。**

企業理念

創業当時から脈々と伝わるエスペックの大切な価値観 企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起点

社会の公器として、すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC Vision 2025のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的に行います

マテリアリティ

- ・事業構造の革新
- ・地球環境保全
- ・人材育成・職場の活性化
- ・機能強化
- ・ガバナンス強化
- ・ダイバーシティ推進・人権尊重

エスペックのSDGsへの貢献

エスペックは、先端技術分野をはじめ幅広い分野で、「環境創造技術」を核とした製品・サービスを提供し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

エスペック

提供する価値

- ・環境創造技術を核とした製品・サービスの提供
- ・環境保全サービスの提供
- ・地球温暖化や異常気象に対応した植物工場の提供

強み

- ・社会の発展に不可欠な事業領域
- ・世界トップブランドと独自技術による質の高い製品・サービス
- ・グローバルな生産・販売ネットワーク

お客様の製品・技術



- ・自動車(EV・自動運転)
- ・電子部品(半導体)
- ・IoT
- ・AI
- ・バッテリー
- ・医薬品
- ・食品
- ・マテリアル
- ・環境保全
- ・アグリカルチャー
- など

社会

持続可能な社会の実現へ



- ・クルマの自動運転技術・予防安全技術の開発による安全・安心な社会の実現
- ・省エネ技術やEV技術の開発による環境・エネルギー問題解決への貢献
- ・IoT関連技術の開発による人手不足の解消、生産性の向上
- ・森づくりや水辺づくりなどの環境保全事業による生物多様性保全
- ・異常気象に対応した植物の作出研究支援や、植物工場による食の安定供給など

エスペックの事業とSDGs

装置事業



環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エナジーデバイス装置

エコカーに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供

●医薬用機器

新型コロナワクチン用の保冷库や、医薬品・食品などの品質管理に使用される安定性試験装置などを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池評価用
アドバンストバッテリーテスター

エスペックの事業とSDGs

サービス事業



環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう
製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験
サービスを提供



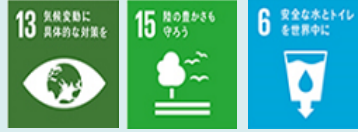
ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

エスペックの事業とSDGs

環境保全事業



生物多様性保全への貢献

その土地の在来種による「森づくり」や自然の
河川を取り戻す「水辺づくり」など自然環境を
復元する事業
地球温暖化の防止や生物多様性保全に貢献



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業



地球温暖化や異常気象に対応した 食の安定供給への貢献

植物が育つ環境を人工的に再現し、異常気象
でも計画的に野菜を生産できる植物工場を提供
乾燥に強い植物の研究に使用する装置の提供
など、食の安定供給に貢献



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動
応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

サプライチェーンにおけるSDGsへの貢献

調達

- 環境面やコンプライアンスなどを含めたサプライヤ評価の実施
- 事業継続マネジメントによる不測の事態への対応
- 調達時の排出物の抑制



開発・設計

- 省エネ、低GWP冷媒の搭載、化学物質の排出抑制、廃棄時の環境負荷低減など環境に配慮した製品の開発・設計



生産・物流

- CO₂排出量の削減
- 化学物質の適正管理・排出抑制
- 取水量の削減・排水の適正管理
- 排出物の削減・リサイクル
- 環境に配慮した物流



製品・サービスの販売

- 社会・環境課題の解決に向けた先端技術の発展に貢献する製品・サービスの提供
- 環境配慮型製品、サービスの提供
- 「森づくり」や「水辺づくり」などの環境保全事業の推進
- 植物育成装置事業の推進



廃棄

- 製品回収
- フロン回収
- リサイクル、リセール



サプライチェーンを支える基盤

- 顧客満足の上昇と製品の品質・安全
- 人権の尊重
- 多様な人材の活躍推進
- 適切な情報開示・コミュニケーション
- 透明性のある公正な経営



環境・エネルギー問題の解決に貢献する製品・サービス

■ 二次電池や燃料電池、太陽電池、パワーデバイスの性能や耐久性を評価する製品群



二次電池用
充放電評価装置



燃料電池用
環境試験装置



太陽電池モジュール用
温度サイクル試験システム



パワーデバイス用
パワーサイクル試験装置

■ 世界初「バッテリー安全認証センター」

車載用バッテリーの国連規則に適合した安全性試験の
実施および認証機関への認証申請をサポート



バッテリー安全認証センター
(栃木県宇都宮市)

■ 再生可能エネルギー100%による受託試験サービス（国内）

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 60%削減、SCOPE 3(間接排出) 30%削減

2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ*より「SBT (Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ

パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。CDP、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)が共同で運営。



第8次環境中期計画(2022年度～2025年度)

基本方針「グリーンテクノロジーを開発されているお客さまへの事業を通じた貢献」

地球温暖化対策および生物多様性保全を中心に取り組みを強化

<2025年度 目標>

- ・温室効果ガス排出量(2019年度比) SCOPE 1+2 55%削減、SCOPE 3 10%削減
- ・エスペックミック植樹本数50,000本・CO2固定貢献95t(累計)
- ・兵庫県三田市「エスペック50年の森」運営による生物多様性保全活動

生物多様性保全の取り組み

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「エスペックバンビの里」が環境省「自然共生サイト」認定

社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定



全国みどりの工場大賞
National Award for Greenery Factory

経産省「全国みどりの工場大賞」
2022年度「近畿経済産業局長賞」を受賞



2022年度 いきもの共生事業推進協議会
「いきもの共生事業所 (ABINC) 認証」を取得

ダイバーシティの推進

女性活躍推進の取り組み



厚生労働省より、
子育てサポート企業認定マーク「くるみん」、
女性活躍推進法に基づく認定マーク
「えるぼし」の最高位などを取得



女性リーダー育成研修会

障がい者就労農園 「エスペックスマイルファーム」

- 2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に障がい者就労農園を開設
- 障がいのある方3名と管理業務を行う1名の計4名を採用
- 栽培した野菜は、地域の子ども食堂への寄付や社員への配布などに活用



社員一同で野菜を収穫

社員教育・寄付制度

社員教育制度の充実

- 企業理念の共有を目的とした研修会の実施
- 国際的に活躍できる人材育成を目的としたグローバルトレーニープログラムの実施
- 経営幹部育成および自己啓発を支援する教育プログラムの拡充



グローバルトレーニープログラム
現地研修(アメリカ)

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- SDGs推進活動の一環として、従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度
- 子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- 2023年4月、トルコ・シリア地震 被災地支援としてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、国境なき医師団 日本に総額860,600 円を寄付



社会貢献活動

エスペック地球環境研究・技術基金

- 地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- 設立から25年
計273団体に総額1億3,840万円を助成
- 2022年9月、設立25周年記念式典を開催



2022年度授与式・設立25周年記念式典

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭

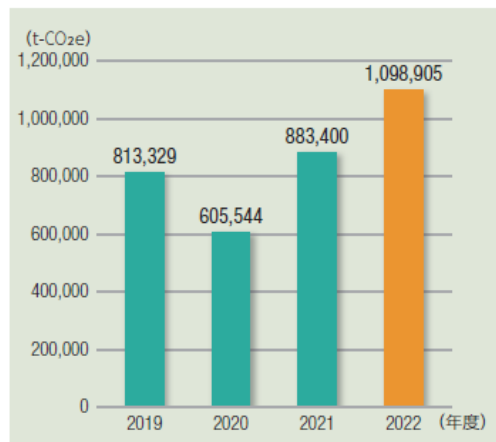
- 2013年にスタートした震災復興プロジェクト
- 岩沼市の沿岸部10kmにわたる植樹による「森の防潮堤」 植樹本数は累計35万本
- グループ会社であるエスペックミックが支援
- ファイナル植樹祭が2021年6月（前編）、2022年5月（後編）に開催された



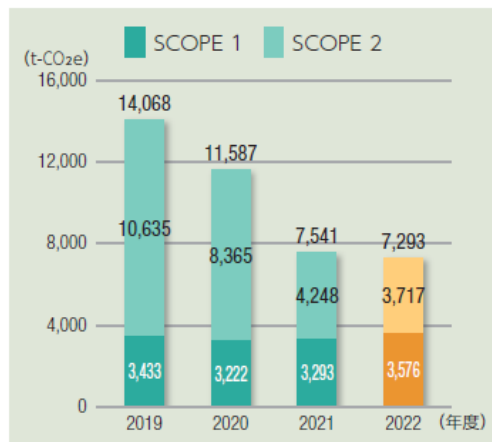
植樹祭

非財務データ①

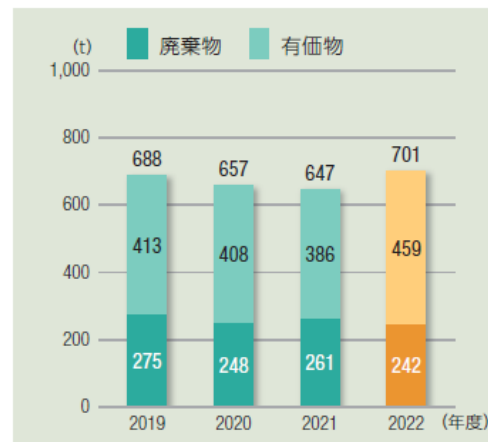
温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2+3合計(連結)



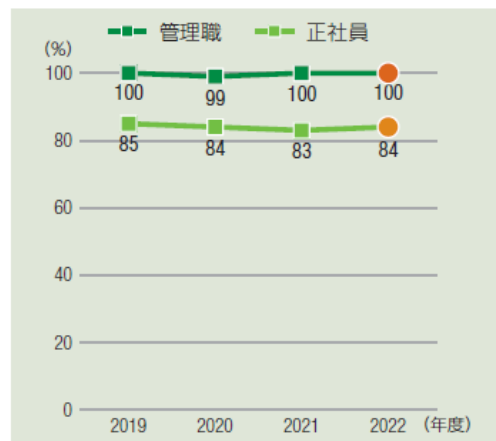
温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2 (自社排出)(連結)



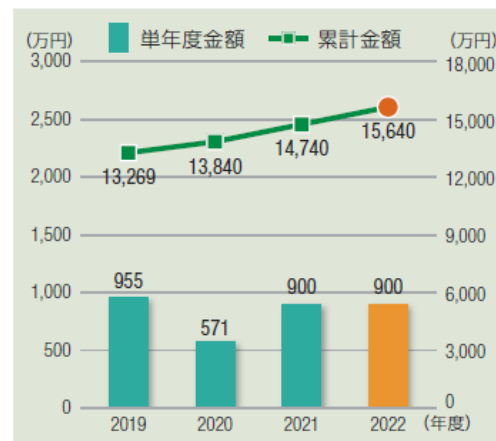
排出物総量(単体)



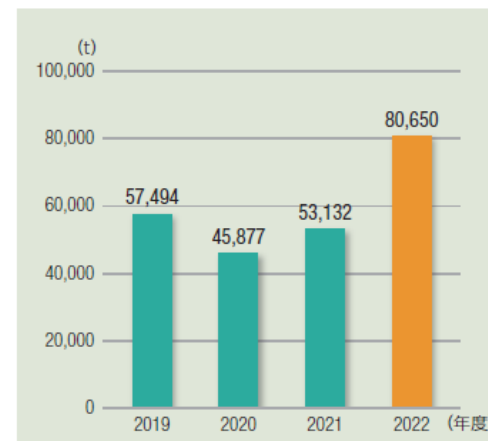
環境社会検定試験 (eco検定)
資格取得率(単体)



エスペック地球環境研究・
技術基金による助成



環境保全事業による植樹本数

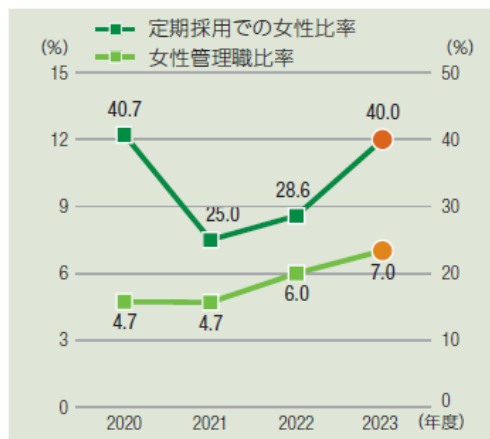


※エスペックミック株式会社 実績

非財務データ②

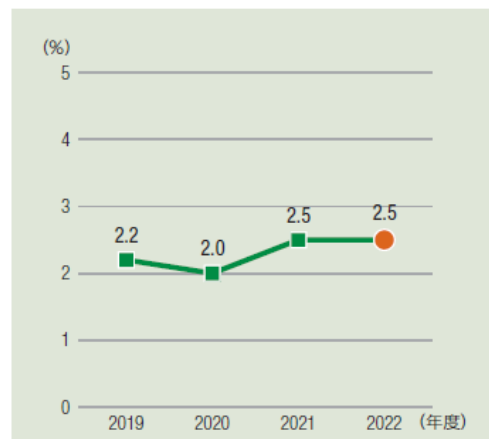
女性管理職比率

定期採用での女性比率(単体)



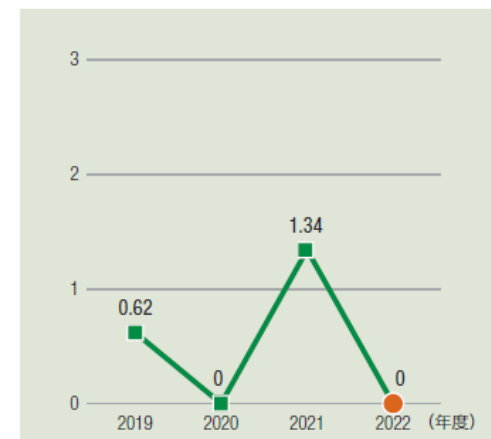
※各年度期初時点

障がい者雇用率(単体)



※各年度末時点

労働災害度数率[※](単体)



※休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③

(年度)		2019	2020	2021	2022
従業員数 ^{※1} (連結)		1,512名	1,526名	1,628名	1,691名
従業員数 ^{※1} (単体)	男性	673名	658名	643名	636名
	女性	113名	122名	127名	142名
	合計	786名	780名	770名	778名
平均勤続年数(単体)		17.4年	19.2年	19.1年	17.2年
平均年齢(単体)		41.2才	43.1才	43.0才	41.2才
離職率 ^{※2} (単体)		2.4%	2.3%	1.6%	1.4%
平均残業時間(単体)		21.2時間	11.0時間	15.5時間	22.6時間
年次有給休暇取得率(単体)		73.4%	65.8%	69.1%	75.1%
育児休業取得率(単体)	男性	7.0%	12.5%	30.8%	13.3%
	女性	対象者なし	100%	100%	100%
労働災害件数(不休災害を除く)(単体)		1件	0件	2件	0件
健康診断受診率(単体)		100%	100%	100%	100%
取締役会 ^{※3} (単体)	独立社外比率 ^{※4}	25%	25%	25%	40%
	女性比率 ^{※4}	0%	0%	0%	20%

※1 各年度末時点

※2 定年退職者を除く

※3 2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行

※4 各年度6月末時点

社外からの評価

■2023年

- 11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
 - ・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星
- 10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位
- 8月・ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2023」
2年連続優秀企業に選定
- 6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定
- 3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定
- 2月・東洋経済新報社「2023年版CSR企業ランキング」372位

■2022年

- 12月・CDP気候変動レポート2022において3年連続「Bスコア」
 - ・日興アイ・アール「2022年度全上場企業ホームページ充実度
ランキング」2年連続最優秀サイト
 - ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2022」
銅賞（業種別24位）

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川